

感激の一幕

上澤謙 二

五月七日夜、鉄道ホテルで『岸邊彌史名話集出版記念會』が開かれた。食事がデザートコースに入るや、いろ／＼な人の祝辭があり、終りに當の岸邊先生が立つて謝辭を述べたが、言半ばにして取出されたのは『幼兒の教育』誌二月號で、ペーヅをめぐつて開かれたのは二七頁の倉橋先生執筆の『岸邊彌史名話集』のところであつた。

先生は『倉橋さんがかういふ批評をして下さつたから』と前置して、且つ讀み且つ語らひつゝ話を進められた。

『皆々々を眞似した』といふところでは、岸邊先生目を細められて、瞬間、自分のその語韻に自分が聞き惚れるといふやうな恍惚境の趣がチラツと仄見えた。『著者の「お伽噺の仕方の理論と實際」が出たのもその頃だつた』といふところでは、思はず唇が綻びて破顔一笑といふ體。古き知己に今遇

つたといふ感じからであらう。『あの若い日の癡りを少しも緩めない』といふところでは言葉に力がはつた。自身力を入れられたところをハッキリ指摘されたので、自づからさうなつたのだらう。『うまさに對する感服よりも態度に對する敬服を禁じ得ない』といふところへ來ると『これだ／＼、かういつてもらへたのは實に……』といつて、岸邊先生の言葉がちよつと途切れたと思ふと、たしかに眸に涙がキラ／＼ツツと光つた。さうしてふかれた。『知己の言に激する』とは正にかういふ場面であらう。『子供のためと稱して(中略)この書は確かに胸を開かせるもの』といふところはいかにも胸が開けたやうに朗々と讀まれた。このことに關する共鳴と同感が自然にさういふ讀み方になつたのだらう。『筋や意味を理解するだけでは足りない(中略)息づかひと共に受

取らなければ』といふところでは、先生、長い顔を稍／＼歪めるやうにして目を光らせた。『こた／＼、この通りだ』と、著者と評者が氣合が合したといふやうな境地であらう。噺す童話の範例として徹底的なるものであるといふところでは『徹底的』といふ三字に力はいつて讀まれた。『徹底的』とはよくもいはれた言葉だと思はれたのだから。『自分の噺とするために即ち嚴格な意味で』云々のところでは『この通りです。こゝを見ていただいたのは……』と、感無量の體。再びキラツと眸に光つたものを見た。

私は著者と評者とかくまで抱合傾倒した有様を今まで見たことがない。而も著者は我國童話口演界の大元老、評者は我國幼兒教育界の第一人者。更に而もあの岸邊先生の涙を、かかる公會の席上で、私は初めて見た。

後進後輩の一人として、私は近頃これ程の感激を受けたことは先づなかつた。眞に花も實もある一幕であつた。